

PC-45.**家兎実験的ぶどう膜炎における FK506 の硝子体内注入による抗炎症・網膜保護作用の検討**

(眼科学)

○石川 友昭、外間 英之、片桐 喜彰
後藤 浩、白井 正彦

【目的】FK506 は免疫抑制作用を有し、かつ網膜神経保護作用もあることが確認されているが、全身投与においては副作用の多い薬剤である。今回、家兎実験的ぶどう膜炎眼を用いて、直接硝子体内に注入し、その抗炎症効果ならびに網膜保護作用を調べ、局所療法としての有用性について検討した。

【方法】白色家兎を使用し、牛血清アルブミンを用いて実験的ぶどう膜炎を作成後、片眼に FK506 (20 ug・40 ug/100 ul)を、眼圧を調整しながら直接硝子体内に注入した。対照にはベタメサゾンおよび BSS を注入して用いた。投与後 1 日、3 日、7 日、14 日目に観察し、臨床的に炎症スコアを評価し、網膜電図の計測を行った後、眼球を摘出した。これらの眼球から病理標本作製し、HE 染色と TUNEL 染色を行い、組織学的検討を行った。

【結果】FK506 投与群では、臨床的に炎症スコアは対照に比して有意に抑制されていた。また、病理組織学的にも炎症は有意に抑制されていた。TUNEL 染色の結果では FK506 と対照の両群間には有意な差はみられなかった。しかし網膜電図 (ERG) では a 波、b 波の振幅は対照と比較して有意に減弱が抑制されていた。

【結論】家兎実験的ぶどう膜炎において FK506 の硝子体への直接投与は、抗炎症効果があり網膜への障害も少ないことが確認され、局所投与療法としての有用性が示された。

PC-46.**熱応答ゲル化製剤の人工硝子体への応用**

(眼科学)

○片桐 喜彰、岩崎 琢也、石川 友昭
外間 英之、山川 直之、白井 正彦

【目的】硝子体手術におけるの眼内充填剤として、各種気体やシリコンオイルなどがあるこれらは全て疎水性であり優れた眼内タンポナーデ効果を有する反

面、薬剤のドラッグデリバリーシステムを兼ね備えた代用硝子体としては不向きである。そこで今回我々は、現在緑内障治療点眼薬の効果増強のために開発された熱応答ゲル化製剤 (thermosetting gel: TG) に着目し、これを家兎眼の硝子体に注入し検討を行った。

【方法】TG は透明性を改良した WTG-127 (わかもと製薬) を使用した。白色家兎に硝子体手術を施行し、液—空気置換後、WTG-127 を約 2 ml、硝子体腔内に注入した。術翌日から 1ヶ月まで細隙灯顕微鏡、倒像眼底鏡にて経過観察を行い、眼圧及び網膜電図を経時的に測定した。

【結果】全経過を通じ、角膜混濁や角膜浮腫、前房のフィブリン析出、水晶体混濁、硝子体混濁、眼圧上昇はみられなかった。WTG-127 の透明性は良好で眼底の観察には支障がなく、網膜にも異常所見はみられなかった。また、網膜電図は僚眼と比較し、振幅の減弱、潜時の延長はみられなかった。

【結果】WTG-127 は体温によりゲル化を生じた後も眼底の透見性に優れ、短期間の観察では眼内組織に対する侵襲はみられなかった。本剤は将来的に各種薬剤の眼内ドラッグデリバリーシステムを兼ね備えた有効な人工硝子体となる可能性がある。

PC-47.**頸動脈狭窄発見の契機からみた院内および病診連携の重要性**

(老年病科学)

○木内 章裕、岩本 俊彦、江崎 真我
藤原 孝之、宮路 裕子、黄川田雅之
高崎 優

【目的】頸動脈狭窄症の早期診断は重要であるが、頸動脈病変は他臓器の動脈病変と相関するため、他臓器の循環障害例を検査中、偶然、発見されることがしばしばある。その発見の契機となる症状や疾患の頻度は施設の特異性で異なるが、発見の契機を熟知すれば頸動脈狭窄症の早期発見に繋がると考えられる。そこで、発見契機を明らかにする目的で、当科に付属した頸動脈超音波検査室において初めて頸動脈狭窄症と指摘された連続 193 例について、その病歴を解析した。

【方法】対象は男 165 例、女 28 例で、これらを検査時期によって I 群 (92 年 4 月-96 年 12 月)、II 群 (97 年 1 月-99 年 12 月)、III 群 (2000 年 1 月-2002 年 12 月) に